

平成 28 年度第 1 回島根県水産振興審議会資料

日時：平成 28 年 10 月 25 日(火) 14:10～
場所：島根県隠岐合同庁舎大会議室、現地

【資料 1】

平成 28 年度第 1 回島根県水産振興審議会（現地調査）行程表・・・・・・・・・・ 1

【資料 2】

隠岐の水産業について（概要版）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【資料 3】

隠岐地域プロジェクトの主な取組状況等について・・・・・・・・・・・・ 8

【資料 4】

現地調査先の概要

- ①漁業協同組合 J F しまね西郷支所女性部・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 6
- ②久見竹島歴史館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7
- ③海士町漁業協同組合加工場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8
- ④海士町漁協直売所「大漁」、地元農産物直売所「しゃん山」・・・・ 1 9
- ⑤島根県栽培漁業センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0
- ⑥（株）日本海隠岐活魚倶楽部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3
- ⑦おき・にしのしま海の駅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 4

(別冊：参考資料)

- ・平成 28 年度 隠岐水産業の概要
- ・株式会社日本海隠岐活魚倶楽部商品パンフレット

白紙

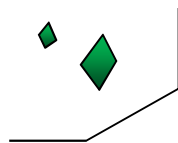
資料 1

平成28年度第1回島根県水産振興審議会（現地調査）行程表

10月25日（火）		時間	場所	備考
発 （開始）	着 （終了）			
14:10	14:50	水産振興審議会会議	島根県隠岐合同庁舎 大会議室	
		・ 隠岐地域の水産業の概要		
		・ 隠岐地域プロジェクトの取組状況		
		・ 意見交換		
14:50	15:20	現地（JFしまね西郷支所女性部加工場）	移動 徒歩	
16:00	16:20	現地（久見竹島歴史館）	移動 隠岐支庁マイ クロバス	
	17:00	隠岐合同庁舎		

10月26日（水）		時間	場所	備考
発 （開始）	着 （終了）			
	8:15	西郷港乗船券売り場前集合		
8:30		西郷港	フェリーしらしま	
	9:40	菱浦港		
9:50	10:15	現地（海士町漁協加工場）	移動 公用車	
10:25	10:45	現地（農水産物直売所 大漁・しゃん山）		
10:51		菱浦港	内航船いそかぜ	
	10:58	別府港		
11:20	11:45	現地（島根県栽培漁業センター）	移動 公用車	
11:50	12:15	現地（（株）日本海隠岐活魚倶楽部）		
12:30	13:25	現地（海の駅（隠岐シーサイドホテル鶴丸）	昼食@1,620円	
	13:35	別府港	移動 公用車	

行程図



【1日目】 隠岐の島町
 水産振興審議会
 【隠岐合同庁舎】
 ↓
 JFしまね西郷支所女性部
 【女性部加工場】
 ↓
 久見竹島歴史館

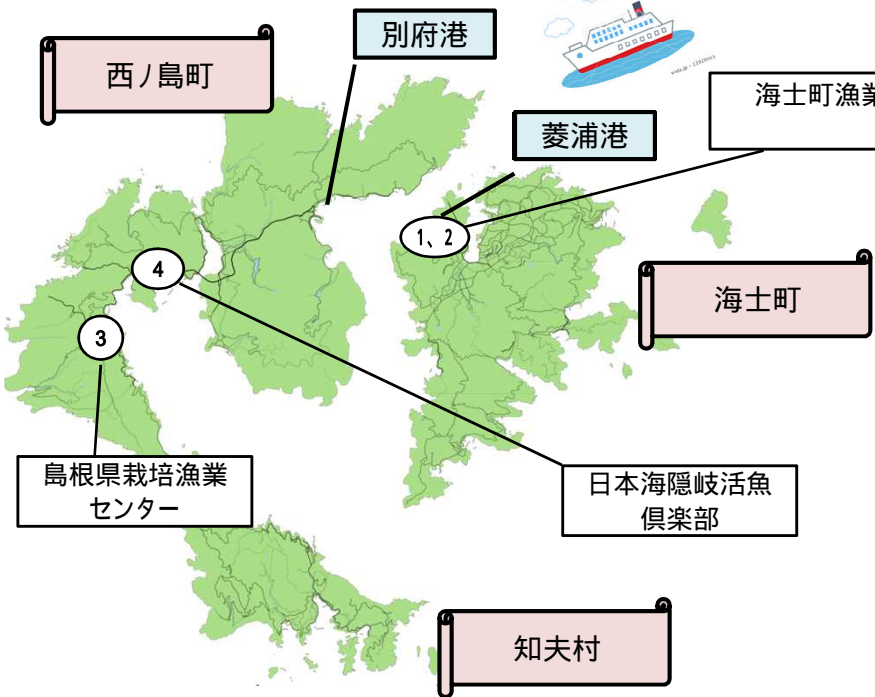
久見竹島歴史館

隠岐の島町

隠岐合同庁舎
女性部加工場

1, 2

西郷港



【2日目】 海士町、西ノ島町
 海士町
 海士町漁業協同組合加工場
 ↓
 直売所視察
 【大漁・しゃん山】
 ↓
 西ノ島町
 島根県栽培漁業センター
 ↓
 日本海隠岐活魚倶楽部

隠岐の水産業について（概要版）

隠岐支庁水産局

（1）水産業の現状

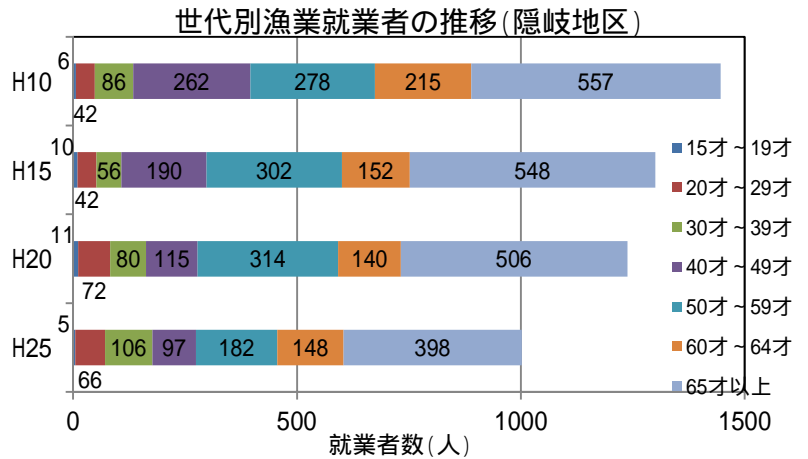
漁業就業者数（漁業センサス）

H25：1,002人（全県の32%）

60才以上の割合：54%（県59%）

自営業就業者の割合：61%（県58%）

県全体の割合から見ると高齢者の割合はやや低く、自営の割合がやや高くなっている。



隠岐地域における漁獲量・水揚金額の動向（H27年1～12月）

H27年の隠岐全体の漁獲量は約8.3万トン（前年比102%）。マアジが減少し、マイワシなど魚価がやや低い魚種の漁獲が多かったことから、水揚金額は約84億円（同95%）となった。

中型まき網漁業：9ヶ統。隠岐全体の漁獲量の94%、水揚金額の69%を占める。

かにかご漁業：スワガニ8隻、バコスワガニ2隻。韓国との漁場競合等の問題が存在。

ばいかご漁業：専業船1、スワガニ兼業船3。エッチュウバイを本場金沢に出荷。

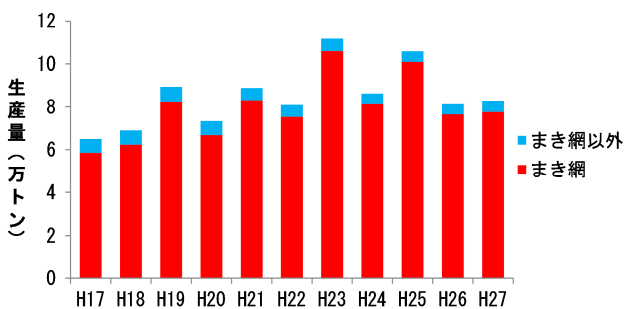
定置漁業：大型3、小型2（つぼ網は数不明）。ブリ類、アジ、タイ類、イカ類が主な対象。

刺網漁業：許可又は漁業権に基づき操業。ブリ類、メバル類、トビウオ類が主な対象。

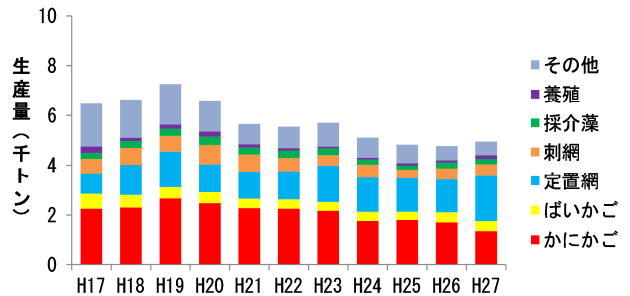
いか釣、一本釣漁業：沿岸漁業の中心となっている。H27年にはイカ類は不漁であったが、ヨコワ（クロマグロ幼魚）が好調であったため水揚金額は4.5億円（前年比157%）。

採介藻漁業：小規模経営体における重要な漁業であり、漁獲量は全県の約5割を占める。

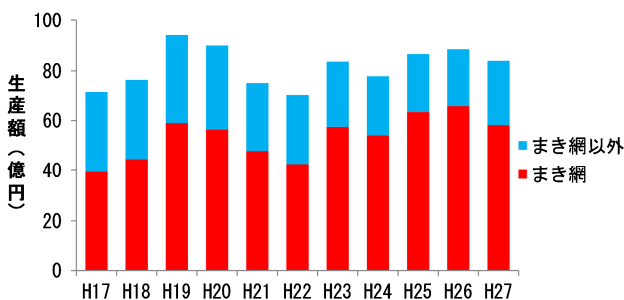
漁業種類別生産量の推移



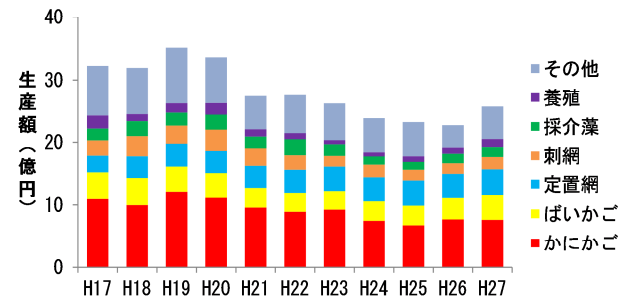
漁業種類別生産量の推移（まき網除く）



漁業種類別生産額の推移



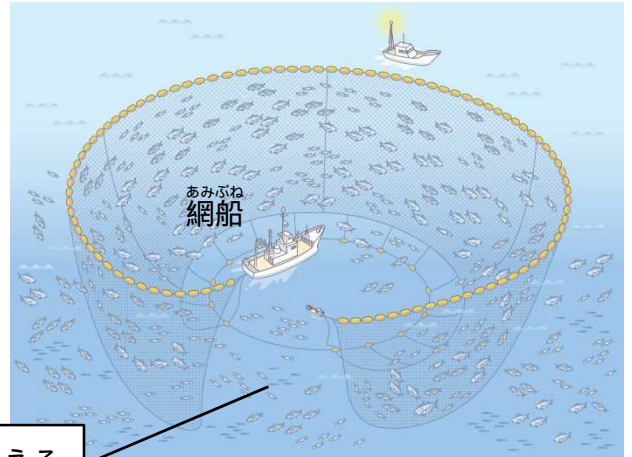
漁業種類別生産額の推移（まき網除く）



中型まき網漁業

【まき網漁業とは】

- ・ 夜間、集魚灯に集まった魚を網で巻いてとる漁業。
- ・ 1 船団は、網船、灯船（3 隻まで）、運搬船等（3 隻程度）で構成されており、各々役割分担をして操業している。
- ・ 船の大きさは総トン数 10～200 トン程度。
- ・ 一度に多くの魚をとることができる（効率が良い）。



この部分を絞って魚をとらえる

出典：農林水産省 HP

【漁獲対象】

アジ類



イワシ類



サバ類



【操業の流れ】

【集合～出港】

夕刻に集合、
準備をして出港

【操業】

隠岐周辺海域～浜田沖の
島根県沖合を漁場とし、
一晩で数回の操業を行う

【水揚げ～帰港】

- ・ 漁獲物は運搬船で
市場に水揚げ
- ・ 概ね午前中に帰港

ひぶね
灯船（19t 型）
（集魚灯で魚を集める）



あみぶね
網船（19t 型）
（魚を網で巻いてとる）



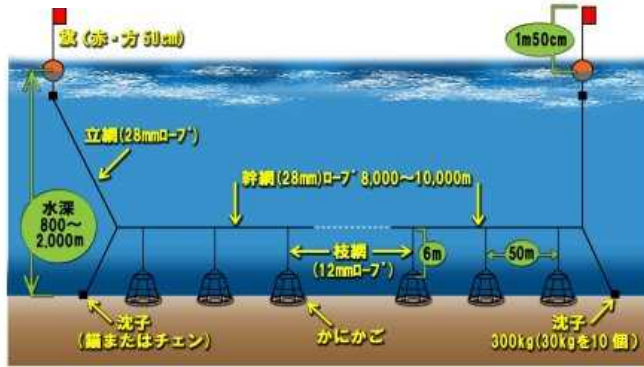
うみぼんせん
運搬船（100～200t 型）
（とった魚を市場まで運ぶ）



かご漁業

【かご漁業とは】

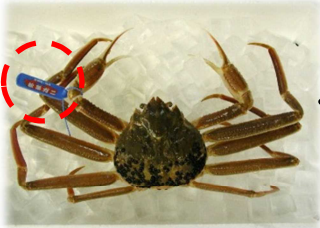
- ・エサを入れたかごをロープに一定間隔に取り付けて海底に沈め、カニや貝をとる漁業。エサには冷凍のサバやイワシなどを用いる。
- ・漁獲対象により、漁場やかごを沈める水深、操業日数などが異なる。



べにずわいがに漁業の操業イメージ 出典：鳥取県 HP

【漁獲対象】

ズワイガニ (松葉ガニ)



ベニズワイガニ



エッチュウバイ (白バイ)



別種

隠岐では 650 g 以上で尚且つ、脚がとれていない等、状態の良いズワイガニに青いタグを付け、“隠岐松葉ガニ”として売り出している。

【操業の流れ】

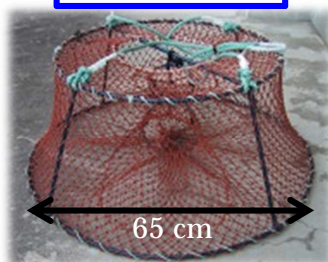
～ずわいがに漁業・ばいかご漁業～

- ・日帰り可能な隠岐島周辺海域 (水深約 200～500mの海底) にかごを沈めた後、一旦帰港し、2～4日後にかごを揚げに行く。
- ・漁獲物は西郷港に水揚げする。
- ・操業期間は、ズワイガニは 11月23日～翌年2月23日、エッチュウバイは周年。

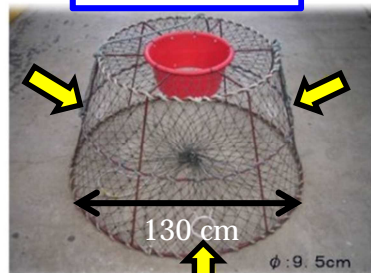
～日本海べにずわいがに漁業～

- ・浜田沖や隠岐島から 400 km 程度までの距離にある漁場 (水深 800m 以深) にかごを設置し、数日～1週間後にかごを揚げる。
- ・1航海にかかる日数は、通常数日～10日間前後。
- ・漁獲物は境港に水揚げする。
- ・操業期間は 9月1日～翌年6月30日。

ばいかご

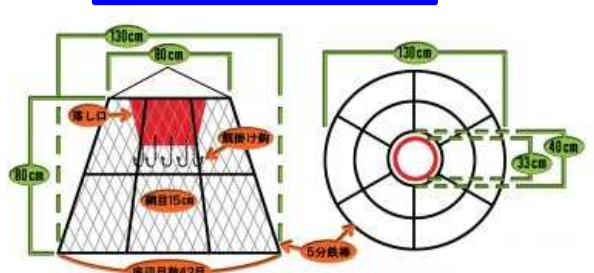


かにかご



脱出用リング (直径 9.5 cm)

かにかごの模式図



定置漁業

【定置漁業とは？】

- ・ 構造物に沿って沖に泳ぐ魚の習性を利用し、網を一定の場所に設置して、魚群を網の中に誘導して漁獲する漁業。
- ・ 魚群を追う他の漁業とは異なり、魚群が入網するのを待つため、過剰漁獲に陥りにくく、継続的な漁業が可能な環境にやさしい漁法と言われる。



【漁獲対象】

- ・ アジ類、タイ類、ブリ類、イカ類など。

【操業方法】

- ・ 早朝に出港し、落とし網を引き揚げて魚を集め、タモ網等で掬い上げる。
- ・ 帰港後、魚種ごとに選別・箱詰めして市場へ出荷する。

【漁具の構造・役割】

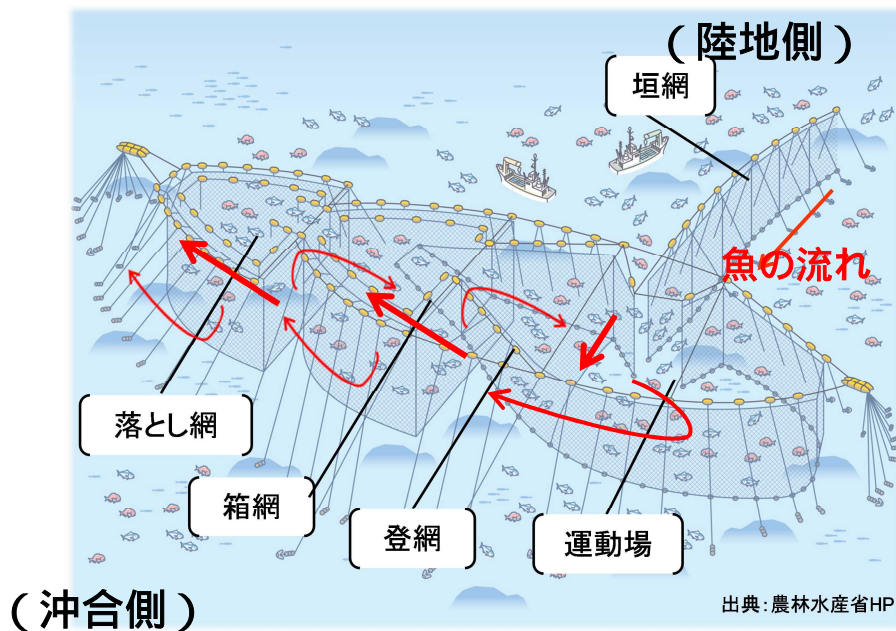
垣網：魚の通り道をさえぎることで、沖の運動場に魚を誘導する。

運動場：誘導された魚をいったん集める。

登り網：運動場内から箱網に移動させる。

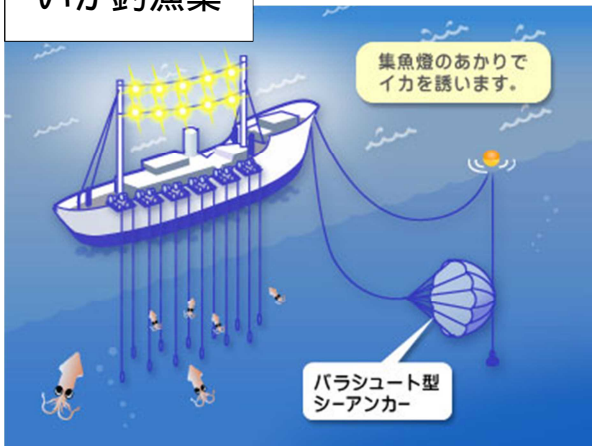
箱網：集めた魚が逃げないように、一旦入ると運動場に戻りにくい構造になっている。

落とし網：最終的に魚を集める場所。この網を揚げて魚を漁獲する。

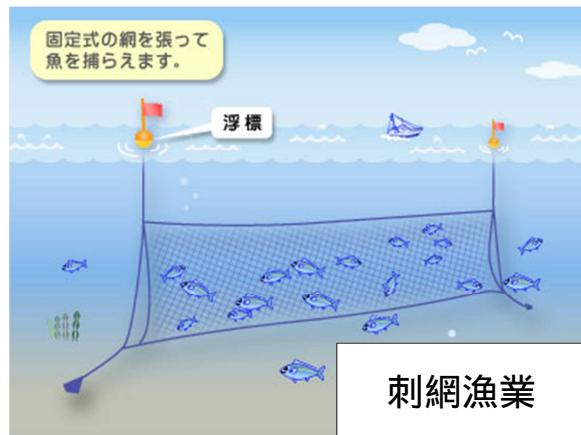
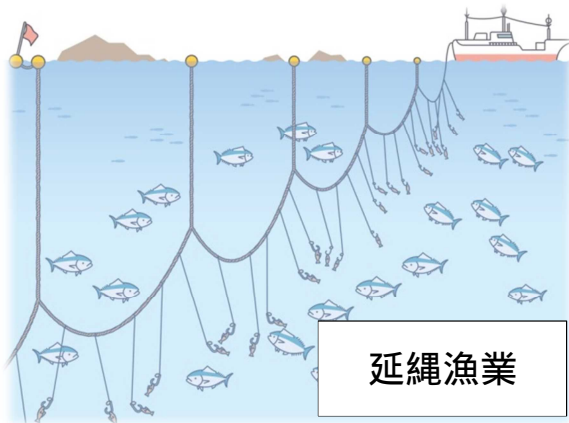
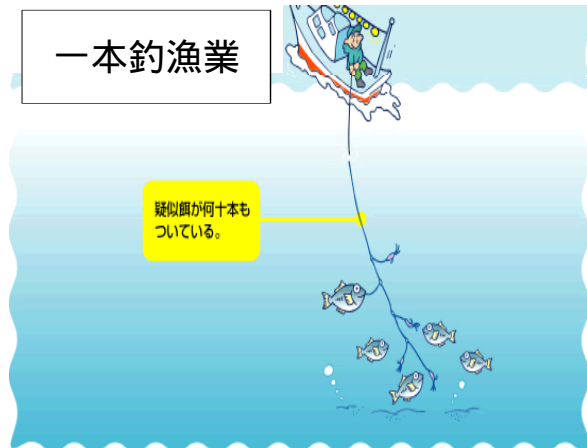


隠岐地域におけるその他の主な漁業種類

いか釣漁業



一本釣漁業



17 隠岐地区（水産）

（1）現状と課題

隠岐諸島周辺海域は優れた漁場であり、アジ、イワシ等をはじめ、松葉ガニ・白バイ・イワガキなど隠岐特産の水産物も豊富に水揚げされており、漁業が地域の基幹産業となっています。

しかしながら、近年の消費者の魚離れによる魚価の低迷や燃油の高騰等による操業経費の増大、加えて、本土への輸送にコストや時間がかかる離島特有のハンデにより、漁業経営は厳しい状況におかれています。

特に、沿岸漁業においては漁業者の高齢化や担い手不足が進行しており、新規就業者の育成確保が喫緊の課題となっていることから、これまでもイワガキ養殖等の振興や漁獲物の付加価値向上等による漁業所得の向上対策、UIターン者の積極的な受け入れ等に努めてきました。

今後とも隠岐地域の漁業の力強い発展を維持するためには、まき網漁業をはじめとした基幹漁業の収益性改善を図るとともに、沿岸漁業の振興や漁獲物の付加価値向上に努め、漁業経営の安定化と担い手の確保を実現する必要があります。

（2）重点的取組の展開方向

①基幹漁業の構造改革のさらなる推進

まき網漁業においては、近年は比較的順調な水揚げが続いていますが、老朽化している運搬船の円滑な更新が課題となっており、今後は漁船の確保に向けて必要となる対策等について関係漁業者や町と検討を進めていきます。

また、かにかご漁業やばいかご漁業については、資源量の維持増大が最も重要な課題であることから、漁獲量制限など現行の資源管理の取り組みを重点的に推進し、漁獲物のブランド化対策と併せ、中長期的な漁業経営の安定を図ります。

②地域の実態に即した漁業所得向上対策の推進

漁場環境に恵まれた隠岐地域では、地域ブランドとして高い評価を得ているイワガキ養殖をはじめとして、釣り、刺網、採介藻など様々な漁業が営まれています。安定的な漁業収入を得るためには漁業の複合経営が極めて重要であることから、複合化の普及に向けた経営モデルの構築に取り組みます。

また、離島ハンデの克服や漁業所得の向上を図るためには、漁獲物の付加価値向上への取り組みが不可欠です。このため、消費者ニーズに合致した商品や加工品の開発、島外に向けた新たな販路の開拓や流通の合理化等に積極的に取り組むとともに、観光との連携や島内消費の拡大を実現するための供給体制の整備を図ります。

③漁業就業者の育成・確保

漁業者の高齢化や担い手不足を解消するために、前述した漁業所得向上を図った上で、新規就業者の受け入れ体制の整備をより一層強化することとし、関係機関や漁業者がしっかりと連携できるよう取り組みます。

また、隠岐水産高校の生徒を対象とした漁業体験実習の実施や、都市部への積極的な就業情報の発信にも努め、新規就業者の確保を推進します。

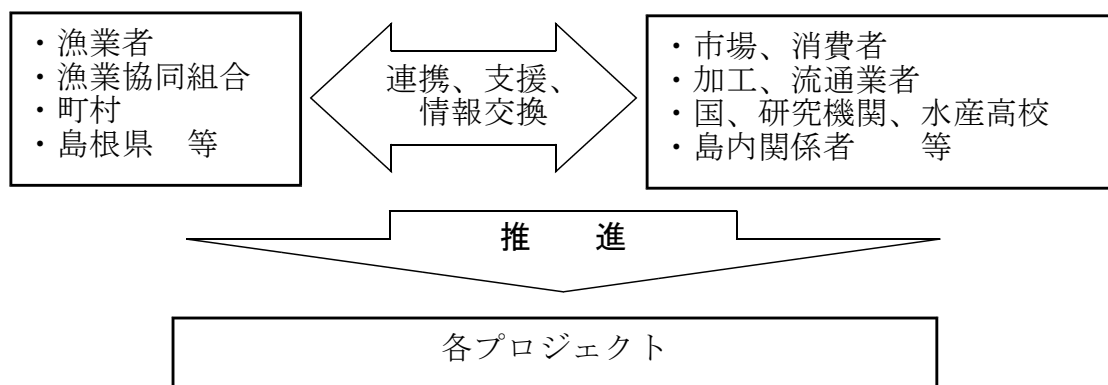
④漁場生産力の向上

従来より取り組まれてきた栽培漁業（種苗放流等）や資源管理型漁業（資源管理計画の履行等）を推進するとともに、産卵場や仔稚魚の育成場所としての機能を有している藻場の造成や保全活動に取り組むことで、さらなる資源の維持増大を図ります。

(3) 主な指標の将来見通

項目	H26	→	H31	備考
1 漁業生産				
①海面漁業生産額 (億円)	88	→	92	
②基幹漁業生産額 (億円) (まき網・沖底・小底・定置)	69	→	73	
2 担い手の育成確保				
① 新規漁業就業者数 (人)	13人/年	→	76人 (H27～31累計)	

(4) 推進体制



(5) 地域プロジェクト

- ① 隠岐地域沿岸漁業活性化プロジェクト
- ② 離島のハンデ克服に向けた水産物の消費拡大・流通・販売対策プロジェクト

隠岐-1

隠岐地域沿岸漁業活性化プロジェクト

隠岐地区（海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町）

5つの柱の区分 [県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能]

1 目的と取組

目的

隠岐沿岸地域では、古くより漁業が地域の基幹産業として栄え、離島における多数の住民の生活基盤を支えてきた。しかしながら、近年では魚価の低迷、燃料費の高騰、漁業者の高齢化と減少、資源の減少などの影響を受け、特に沿岸漁業では漁業経営の悪化や後継者問題が深刻化しており、平成25年では自営漁業就業者のうち60歳以上が53.8%を占めるまでに至っている。

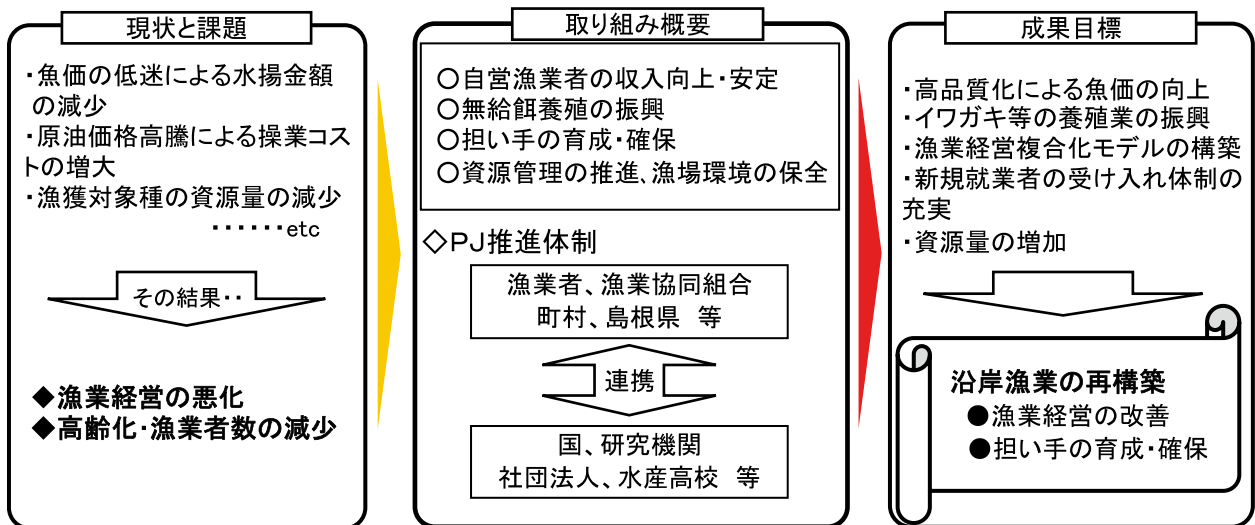
既存漁業者の維持と新規就業者を確保するためには、沿岸漁業において家族を養っていけるだけの収入を安定して確保することが喫緊の課題である。これまでにも、イワガキ養殖の振興による複合経営化やIターン者の確保、活メ等の普及による漁獲物の高品質化と付加価値の向上、新規就業者の受け入れ体制の整備など、漁業収入の増加と担い手の確保に向けた取り組みを進めてきた。

本プロジェクトでは漁業の現場における視点から、従来の取り組みを精査し、沿岸漁業の再構築を図るべく、漁業の複合経営モデルの検討、漁場環境に適応した養殖業の振興、魚価向上対策、新規就業者支援などに総合的に取り組む。

取組

- 自営漁業者の収入向上・安定
 - ・漁獲物の高鮮度処理、規格化等の高品質化による魚価向上に取り組む。
 - ・養殖、既存漁業、新規漁法導入による漁業経営の複合化によって収入の安定化を図る。
 - ・実態に合わせた操業規制等の見直しにより水産資源や漁場の有効活用を促進する。
- 清澄な水域環境が育む無給餌養殖の振興
 - ・『隠岐のいわがき』養殖の生産拡大のため衛生管理、養殖手法改善、PR支援等に取り組む。
 - ・ヒオウギガイなどその他の貝類養殖の振興を検討する。
 - ・ワカメ養殖、新規養殖種開発等により藻類養殖の振興に取り組む。
- 担い手の育成・確保
 - ・情報発信、研修制度活用、就業支援等による新規就業者の受け入れ体制の整備に取り組む。
 - ・隠岐水産高校と連携した新規就業者の確保に努める。
- 資源管理の推進、漁場環境の保全
 - ・栽培漁業（種苗放流等）や資源管理型漁業（資源管理計画等の実施）の推進に取り組む。
 - ・実態調査に基づく藻場の造成や保全活動に取り組む。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

- 沿岸漁業活性化プロジェクト（県共通）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
自営漁業者の収入向上・安定	漁獲物の高品質化による魚価向上	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	漁業の複合経営モデルの検討	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	操業規制等の見直しによる水産資源や漁場の有効活用	漁業者、漁業協同組合、島根県	H28～31
清澄な水域環境が育む無給餌養殖の振興	『隠岐のいわがき』養殖の振興	漁業者、隠岐のいわがきブランド化推進協議会、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	その他の貝類養殖の振興	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	ワカメ養殖、新規養殖種開発等による藻類養殖の振興	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
担い手の育成・確保	新規就業者の受け入れ体制の整備	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	隠岐水産高校との連携した新規就業者の確保	漁業協同組合、町村、島根県、水産高校	H28～31
資源管理の推進、漁場環境の保全	栽培漁業、資源管理型漁業の推進	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	藻場の造成や保全活動	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項目	現況 (H26)	目標 (H31)
年間水揚げ金額300万円以上の自営漁業者数 【総合戦略】	65人	→ 68人
隠岐のいわがき販売金額 【地域独自】	2.17億円	→ 2.5億円
新規自営漁業就業者数 【地域独自】	0人/年	→ 6人 (H28～31累計)

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：漁業者、漁業協同組合JFしまね（浦郷支所、西郷支所）、海士町漁業協同組合、西ノ島町、海士町、知夫村、隠岐の島町、隠岐支庁水産局、隠岐のいわがきブランド化推進協議会 等
- 連携・協力機関：水産課、水産技術センター、隠岐水産高等学校 等

隠岐-2

離島のハンデ克服に向けた水産物の消費拡大・流通・販売対策プロジェクト

隠岐地区（海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町）

5つの柱の区分 [県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能]

1 目的と取組

目的

隠岐諸島周辺海域は非常に優れた漁場であり、豊富な種類の水産物や松葉ガニ・ばい貝等の隠岐特産の魚介類を供給する日本海有数の産地である。しかしながら、近年の消費者の魚離れや輸入魚の増加等の影響による魚価の低迷が著しく、資源の減少と相まって漁業経営を極めて苦しいものとしている。また離島という立地条件から、漁獲物を本土へ輸送するためのコストや時間が余分にかかるハンデを抱えており、漁業経営を更に不利なものとしている。

これらの状況を克服するため、隠岐で水揚げされた水産物の付加価値と魚価の向上を目的に、消費者ニーズに合致した商品の高品質化や加工品等の開発、島外への販路拡大に向けた出荷体制の構築や流通の合理化、水産物の各種PRや魚食普及活動、島内消費の拡大等について各町村で積極的な取組を推進してきた。

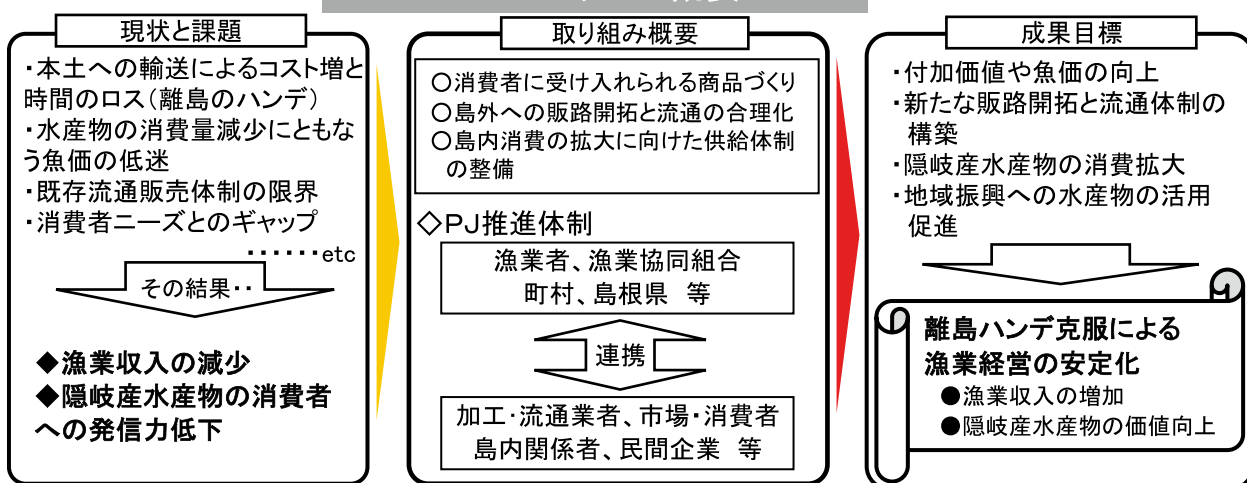
これらの取組により販路開拓や付加価値向上に様々な成果が得られているが、一方で、地域や水産物によっては未だ期待した成果に繋がっていない事例も存在している。

このため本プロジェクトでは、これまでの取組をしっかりと検証した上で、島外・島内それぞれに向けた隠岐産水産物の消費や販路の拡大に必要な対策に引き続き取り組むとともに、そのために必要となる流通体制の整備や合理化を図る。

取組

- 消費者に受け入れられる商品づくり
 - ・関係機関の連携、魚価向上の為の販売戦略の構築等により水産物の品質向上対策の強化を図る。
 - ・消費者ニーズに合致した新たな加工品開発や既存商品のブラッシュアップ、加工施設の整備等による水産加工の振興を図る。
- 島外への販路開拓と流通の合理化
 - ・消費地市場への直接出荷や産直販売の拡充、量販店等への販促活動の強化、6次産業化の推進等により市場流通以外の新たな販路の開拓を検討する。
 - ・アンテナショップや展示商談会等への出店、都市圏等でのイベントの活用等により水産物のPR強化に取り組む。
- 島内消費の拡大に向けた供給体制の整備
 - ・生産者による産直販売の強化、給食・介護食等への利用促進に向けた供給体制の整備等により島内における流通販売体制の充実を図る。
 - ・観光関連業者との情報交換の活性化、観光食材を安定供給するための施設・体制の整備、地域特産となる新たな土産物の開発等により観光振興との連携強化を図る。
 - ・料理教室の開催、漁協女性部と連携した活動等により魚食普及に向けた活動を推進する。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

- 隠岐の地産地消推進プロジェクト（隠岐圏域）
- 地産地消推進プロジェクト（県共通）
- 6次産業の取組拡大プロジェクト（県共通）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
消費者に受け入れられる商品づくり	水産物の品質向上対策の強化	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	水産加工の振興	漁業者、加工業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
島外への販路開拓と流通の合理化	市場流通以外の新たな販路の開拓	漁業者、流通業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	水産物のPR強化	生産者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
島内消費の拡大に向けた供給体制の整備	島内での流通販売体制の整備	漁業者、漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	観光振興との連携強化	漁業協同組合、町村、島根県	H28～31
	魚食普及に向けた活動	漁業協同組合、町村、島根県	H28～31

3 成果指標 (数値目標)

項目	現況 (H26)	目標 (H31)
隠岐島内に水揚げされる漁獲物の平均単価 【地域独自】	597円/kg (H24～26平均)	→ 627円/kg

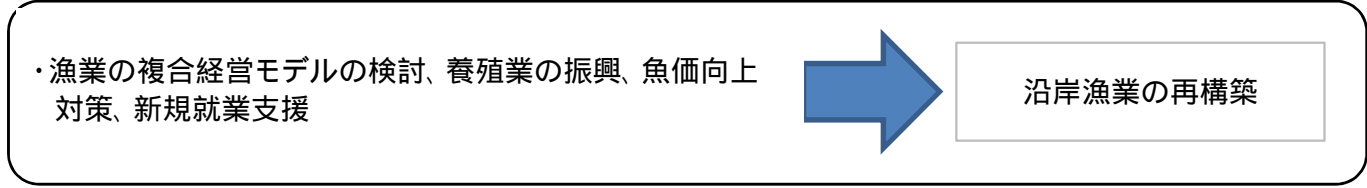
4 推進体制

- プロジェクトメンバー：漁業協同組合JFしまね（浦郷支所、西郷支所）、海士町漁業協同組合、西ノ島町、海士町、知夫村、隠岐の島町、隠岐支庁水産局 等
- 連携・協力機関：水産課、水産技術センター、隠岐スモールビジネス協議会、(株)日本海隠岐活魚倶楽部、(株)ふるさと海士 等

新たな農林水産業・農山漁村活性化計画(第3期戦略プラン) 地域プロジェクトの主な取り組み状況等について

圏域名	隠岐	PJ名	隠岐地域沿岸漁業活性化プロジェクト
-----	----	-----	-------------------

プロジェクトの目的



取り組みの概要

- ・漁獲物の高鮮度処理等による高付加価値化や漁業経営の複合化、操業規制の見直しなどによる 自営漁業者の収入向上・安定
- ・イワガキやワカメなどの 無給餌養殖の振興
- ・就業支援などの受け入れ態勢の整備や水産高校との連携による 新規就業者確保・育成 等

成果指標

項 目	単 位	現況(H26)	目標(H31)
【総合戦略】 年間水揚げ金額300万円以上の自営漁業者数	人	65	68
【地域独自】 隠岐のいわがき販売金額	億円	2.17	2.5
【地域独自】 新規自営漁業就業者数	人/年	0	6(累計)

取り組みの状況

- ・「隠岐のいわがき衛生管理マニュアル」の遵守徹底を指導。
- ・イワガキ出荷作業の省力化・効率化のための発泡スチロール箱自動梱包機を導入予定。
- ・イワガキの生産個数増大のため、養殖筏16基を新たに設置予定。
- ・新たな養殖対象種であるウップルイノリの養殖試験用施設を設置。
- ・医療分野等での商品化を目指し、原料となる未利用海藻の養殖試験等を実施。
- ・新規就業者確保・定住対策について、関係者と協議を実施。
- ・隠岐水産高校生を対象に就業に関する説明会を実施。
- ・魚価向上のための活け締め講習会を実施予定。



取り組みの成果

- ・平成28年漁期においても「隠岐のいわがき」による健康被害の報告なし。
- ・未利用海藻について、他の海藻との競合等により養殖方法の確立には至っていないが、一部のものについては目処が立ったところ。
- ・新規就業者確保対策として、水産、畜産、観光業等を組み合わせた「定住モデル」を構築していくこととなった。

今後重点的に取り組む課題

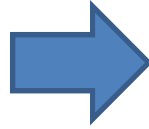
- ・「隠岐のいわがき」の更なる高品質化、作業の省力化、効率化に向けた養殖手法の開発と普及が必要。
- ・未利用海藻の養殖試験を継続実施し、養殖方法を確立することが重要。
- ・漁業求職者への情報発信や既存事業者とのマッチングのための仕組み作りが必要。
- ・魚価向上のための高鮮度処理等の実践が必要。

新たな農林水産業・農山漁村活性化計画(第3期戦略プラン) 地域プロジェクトの主な取り組み状況等について

圏域名	隠岐	PJ名	離島のハンデ克服に向けた水産物の消費拡大・流通・販売対策プロジェクト
-----	----	-----	------------------------------------

プロジェクトの目的

- ・付加価値、魚価の向上
- ・島内外への隠岐産水産物の消費・販路拡大



消費者ニーズに合わせた商品開発
流通体制の整備・合理化

取り組みの概要

- ・加工品の開発・改善、加工場整備等による消費者に受け入れられる商品づくりの推進
- ・消費地市場への直接出荷・産直販売や都市圏でのPR強化による島外への販路開拓・流通合理化
- ・観光振興との連携強化等に向けた供給体制の整備や、魚食普及活動による島内消費の拡大 等

成果指標

項目	単位	現況(H26)	目標(H31)
【地域独自】 隠岐島内に水揚げされる漁獲物の平均単価	円 / k g	597 (H24～26平均)	627

取り組みの状況

- ・各町村にて、新たな水産加工場建設に向けた事業の検討、実証試験に着手。
- ・CAS凍結センターのHACCP対応改修工事を予定。
- ・隠岐の水産物について、各種イベントや商談会にて販促活動、PRを実施。
- ・地元直売所での水産物販売に向けた事業に着手。
- ・島内消費の拡大、島内流通促進のための朝市を開催（隠岐の島町）、朝市の開催に向けての事前調整に着手（西ノ島町）。
- ・観光業等と連携して隠岐の島を「貝の王国」としてPR。



取り組みの成果

- ・水産加工場新設に向けた実証実験にて、マアジやケンサキイカの冷凍品及びブライン凍結したスルメイカ沖漬けを試作し、商談会へ出展。
- ・CASイワガキは過去最高の20万個を確保、取引量が増加。
- ・朝市の開催により、島内で地元鮮魚や水産加工品を購入する機会が増加（隠岐の島町）。
- ・朝市の実施に向けて協議した結果、1月あたりの開催回数や取扱対象漁獲物が決定するなど、実施体制が構築されつつある（西ノ島町）。
- ・飲食店や民宿等において、観光客向けの隠岐産貝類（白バイ等）を用いたメニューが増加。

■今後重点的に取り組む課題

- ・加工場建設にあたり、加工品目の選定、流通方法や販路の検討が必要。
- ・地元直売所での水産物販売にあたり、鮮魚や加工品の継続確保、収集方法等について検討が必要。
- ・朝市実施に向け、販売者の選定や販売価格等の検討が必要（西ノ島町）。
- ・観光業と連携した水産物供給体制の整備に向けた取組の実施・継続が必要。

漁業協同組合 JF しまね西郷支所女性部について

1. 概要

隠岐の島町で水揚げされた水産物を用い、加工品を開発・製造・販売することにより付加価値の向上や地産地消を推進すると共に、地域の子供たちを対象とした料理教室の開催やイベントへの参加を通して魚食普及活動を行う。

2. 沿革

昭和 34 年 西郷漁協婦人部 結成

平成 15 年 おき西郷漁業協同組合女性部

平成 18 年 漁業協同組合 JF しまね西郷支所女性部 (H28.3.31 現在 35 名)

3. 活動内容

■ 加工品開発・製造

あごミンチ、あごカツ、魚醤油、魚うどん、干物などを開発・製造

■ 加工品販売

あんき市場への出荷、朝市（魚の日）や地域内のイベントに参加し加工品を販売

■ 加工試験委託

町の事業として、豆アジの選別・凍結、イカ類の沖漬け試作等を実施 (H28 年度)

■ 料理教室

隠岐の島町内の保育所、小中学校を対象にマアジやトビウオ等の調理実習を実施

4. 加工設備について

冷風乾燥機、真空包装機、冷蔵庫・冷凍庫など



加工作業



加工品「あごカツ」



漁業集落祭り



料理教室（干物）

久見竹島歴史館の概要

久見竹島歴史館 [竹島資料収集施設]

- ・目的
竹島に関する住民の証言や資料の収集
- ・所在地
隠岐の島町久見311-3 (08512-3-1150)
- ・開館時間
9:00 ~ 17:00
- ・休館日
年末年始(12/29 ~ 1/3)
- ・入館料
無 料



開設披露式典【2016/5/29】



【建物の概要】
木造平屋建て
床面積: 約165㎡
隠岐島産木材使用量
・スギ 17.4771㎡
・マツ 4.9648㎡
計 22.4419㎡



観覧・展示スペース



研修・交流・調査室

海士町漁業協同組合の加工場について

1. 概要

海士町で水揚げされた水産物を用いた加工品を製造・販売することにより付加価値の向上や地産地消の推進を図ることを目的に整備。特に学校給食への水産物提供に努めており、魚のフィレやイカリングなどを製造している。

2. 沿革

平成 23 年度 海士町が事業主体となって加工場を整備
平成 27 年度 新たな乾燥機を導入し、建物も増築

3. 運営状況

- ・稼働状況：月～金曜日 週 5 日間
- ・作業人数：パート職員 2 名
ワカメ加工など繁忙期には漁協職員も含め最大 6 名
- ・加工設備：乾燥機、ワカメ裁断機、真空パック機、冷凍冷蔵庫 等
- ・生產品目：乾燥ワカメ
煮干（マアジ）
干物（マアジ、キダイ等）
フィレ（マサバ、ハマチ等）
スルメイカリング（衣は付けない）
サザエご飯の素（冷凍パック）・・・etc
- ・販売先：大漁（海士町漁協直売所）での店頭及びネット販売
海士町をはじめとする島前の学校給食への供給
にほんばし島根館・・・etc



海士町漁業協同組合直売所「大漁」、地元農産物直売所「しゃん山」について

承久海道キンニャモニャセンターについて

海士町の情報発信及び交流の拠点施設として平成 14 年に整備された、木造 2 階建て建物で、隠岐汽船や内航船、バス・タクシーなどのターミナル機能の役割を持つほか、海士町の「海士町観光協会」、海士町漁協の直売店「大漁」、株式会社ふるさと海士の地元農産物直売所「しゃん山」、海士町役場の産業二課（交流促進課、地産地商課）などが入っている。

海士町漁業協同組合直売所「大漁」

1. 概要

- ・海士町漁業協同組合の直売所として、地元の鮮魚、貝類（イワガキ、ヒオウギガイ、サザエ等）、隠岐の海産物加工品等を販売。
- ・店頭販売以外にもホームページを開設し「大漁 Web」としてネット販売を実施。

2. 沿革

平成 9 年度 海士町内の漁業協同組合合併を機に開設（現加工場の場所）

平成 14 年度 承久海道キンニャモニャセンターの完成時に現在の場所に移転



地元農産物直売所「しゃん山」

1. 概要

地元産の野菜や米などの他、「こじょうゆ味噌」や「ふくぎ茶」等の農産品、「CAS 凍結商品」といった島風便商品等、海士産品を販売。

2. 沿革

平成 14 年度 承久海道キンニャモニャセンター内に開設、(株)ふるさと海士が運営



写真：(株)ふるさと海士 HP より

島根県栽培漁業センターの概要

【業務内容】

本県漁業・養殖業の安定的な発展を図ることを目的として、種苗放流及び県内養殖に用いる種苗を生産。

【沿革】

昭和 51 年 4 月	隠岐郡西ノ島町浦郷に「島根県栽培漁業センター」として開所
昭和 53 年 4 月	マダイ・ヒラメ・クルマエビの種苗生産開始 その後、アワビ類、イタヤガイ、イワガキ等の種苗生産を随時開始
平成 19 年 1 月	「県行政に関する集中改革プラン」において、種苗生産業務の民間委託が決定
平成 22 年 4 月	(公社)島根県水産振興協会に種苗生産業務の委託開始 平成 22～26 年度まで県職員(研究員)を派遣し、技術移転を実施
平成 27 年 3 月	技術移転終了、(公社)島根県水産振興協会単独での種苗生産開始

【現在の運営状況】

平成 27 年度の生産実績

マダイ(放流用): 45 mm 65 万尾

ヒラメ(放流用): 45 mm 43 万尾

イワガキ(養殖用): 18.1 万枚(10 個以上/コレクター)

栽培漁業センターにおける職員数: 協会職員 6 名、臨時職員 5 名

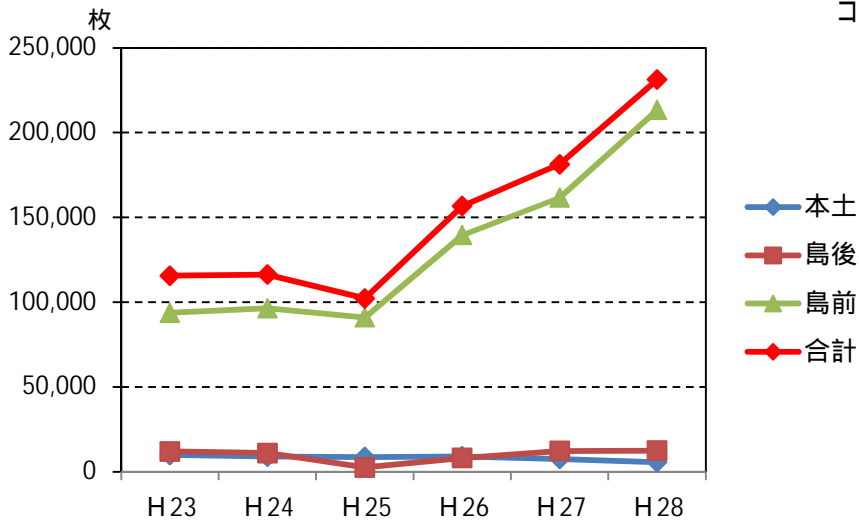


栽培漁業センターにおける種苗生産の実績

(1) イワガキの生産数量の推移

地域	配布先	H23	H24	H25	H26	H27	H28(予定)
本土	浜田支所	0	0	0	200	0	200
	美保関支所	105	120	100	150	0	0
	島根町支所	9,800	8,800	8,600	8,700	7,550	5,400
島後	西郷支所	12,000	11,000	2,500	8,100	12,200	12,400
島前	浦郷支所	32,625	31,800	29,400	36,000	50,000	60,500
	知夫出張所	6,950	9,500	3,000	5,000	8,500	14,700
	海士町漁協	54,100	55,070	58,600	98,500	103,075	138,100
合計		115,580	116,290	102,200	156,650	181,325	231,300

コレクター1枚あたり10個以上



(2) マダイ・ヒラメの生産量の推移

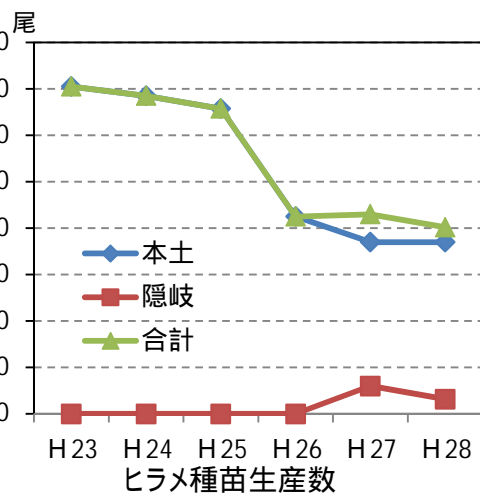
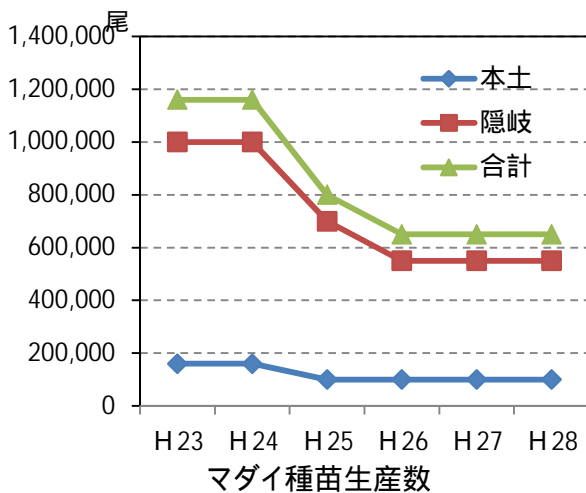
マダイ

地域	H23	H24	H25	H26	H27	H28(予定)
本土	160,000	160,000	100,000	100,000	100,000	100,000
隠岐	1,000,000	1,000,000	700,000	550,000	550,000	550,000
合計	1,160,000	1,160,000	800,000	650,000	650,000	650,000

ヒラメ

地域	H23	H24	H25	H26	H27	H28
本土	705,000	685,000	657,500	425,000	370,000	370,000
隠岐	0	0	0	0	60,000	32,000
合計	705,000	685,000	657,500	425,000	430,000	402,000

平成27年度は西ノ島町全域集落が島前湾に放流



イワガキ種苗生産について

栽培漁業センター

イワガキ種苗生産工程(例:H27年度1回次)

日時	5月26日	6月1日	6月9、10日	6月11、12日	6月13、14日	6月25日	約1ヶ月後
主な作業	採卵 (陸上飼育)	採苗器準備 (エージング開始)	採苗器投入	天地返し (採苗器を裏返す)	天地返し (採苗器を元に戻す)	沖出し (海面飼育)	選別、出荷
	1日目	7日目	15、16日目	17、18日目	19、20日目	31日目	
日齢	1日目	7日目	15、16日目	17、18日目	19、20日目	31日目	

水槽数 1トン ポリーカーボネート水槽 48基

採卵(親貝) 親貝はセンターで生産している。採卵方法は切開法を用いており、の比率が1:5程度の割合で採卵を行っている。

陸上飼育 水槽内で止水にて管理。毎日流水にて水替えを行い、水槽内のゴミや幼生の死骸を除去するため底掃除を実施。流水量は日齢に合わせて増加させる。

餌料 採卵～採苗器投入まで 自家培養のイソクリシス・ガルバナ、パプロバの2種類と購入したキートセラス・カルシトランス(マリントック社製) 合計3種類

採苗器投入後～沖出しまで キートセラス・カルシトランス(マリントック社製)とキートセラス・グラシリス(ヤンマー社製) 合計2種類

その他 水槽内の水質を安定させるため、自家培養した植物プランクトンのナンクロロプシスを水槽に毎日添加している。



親貝



陸上水槽(採苗器投入)



沖出し(海面飼育)



採苗器と成長した稚貝

新たな養殖方法(シングルシード法)に対応した種苗生産の取り組み

- ・通常の養殖法ではカキは採苗器のホタテ貝殻に10～20個が塊となって成長するか、成長途中で一度バラし系やセメントで再度まとめて成長させる。
- ・シングルシード法では、特別な採苗器を用いて採苗し、約1年後種苗がある程度成長した段階で剥離し、その後はかごに入れバラの状態で成長させる。
- ・そのため、一部については従来のホタテ貝殻を特殊な採苗器に変更して種苗生産を実施している。(H27年度は 79,975枚(全体の43%))

(株)日本海隠岐活魚倶楽部について

1. 概要

地元の特産品であるイカを“ロケットパック”により活きたまま出荷することで、離島における流通面でのハンデを克服し、漁業者の所得向上・安定化や地域活性化を目標に、漁協、漁業者、町・観光協会職員等の出資により設立された。

現在では、魚やアワビ等の活魚出荷、加えて、プロトン凍結機を用いた高鮮度な活イカやイワガキの凍結商品、地元の鮮魚・加工品の販売も実施しており、県外への販売促進や地元飲食店等での利用促進により隠岐の魅力向上に貢献している。

2. 沿革

平成 18 年 6 月 14 日設立

平成 22 年度 プロトン凍結機導入

3. 運営状況

- ・稼働状況：休みは 1/1～3、12/31 の 4 日間のみ
- ・人数：社長 1 名、従業員 2 名
- ・加工設備：活魚パック機、プロトン凍結機、乾燥機、真空パック機、冷凍保管庫
活魚水槽 3 t 型 × 8 基 等
- ・生産品目：「伝説のイカ」(活イカパック：ケンサキイカ、ヤリイカ)
「隠岐の活魚」(活魚パック：オコゼ、ヒラメ、キジハタ、アワビ等)
「隠岐のいわがき」(生食用活イワガキ)
プロトン凍結製品(ケンサキイカ、イワガキ)
隠岐の魚貝類(活サザエ、エッチュウバイ、ズワイガニ等)・・・etc
- ・販売先：島外の飲食店(居酒屋チェーン店等)への直接販売
生協・ギフト店を通じた個人への販売(主に活イワガキ)
事務所での直接販売
現在、ネット販売は行っていない。・・・etc



イカ寄せの浜に漂着したイカ



活魚水槽



パックした活イカ



プロトン凍結



平成 27 年 5 月 1 日

「おき・にしのしま海の駅」誕生！

～山陰初の海の駅～

この度、『隠岐シーサイドホテル鶴丸』が、「おき・にしのしま海の駅」として海の駅ネットワークに仲間入りすることになりました。

平成 27 年 5 月 5 日 (火) 12 時 30 分より、現地（隠岐シーサイドホテル鶴丸内）にて「海の駅」認定証の交付式を行います。

「海の駅」は、海からの交流人口を増やすことによる地域活性化を目的として、平成 12 年に「ゆたか海の駅」（広島県呉市）が誕生したところから始まり、その後、「誰でも、気軽に立ち寄れる港」を合言葉に全国に広がりました。「おき・にしのしま海の駅」の認定により、海の駅の数、中国地方では 22 駅、全国では 149 駅、山陰（島根県・鳥取県）では初めての海の駅となります。

「おき・にしのしま海の駅」は、隠岐諸島の島前（どうぜん）・西ノ島（にしのしま）に位置し、摩天崖（国内最大級の海崖）などがある国賀海岸の観光やクルージングの寄港地として、海上からの来訪者の利用が期待されています。

また、当該施設には、ビジター桟橋のほか給水・給電設備や風呂・シャワー設備、レストラン、売店等もあり、誰でも気軽に立ち寄り、サービスを利用することができます。

中国運輸局では、今後も「海の駅」の設置推進、利用促進等を通じて、マリンレジャーの振興を図って参ります。

○ 海の駅の概要

名称：「おき・にしのしま海の駅」

施設の名称：隠岐シーサイドホテル鶴丸

住所：島根県隠岐郡西ノ島町美田 771-1

登録申請者（運営主体）：つる丸汽船観光 有限会社

バース数：ビジター用 3 隻

利用料金：無料 ホテル利用者（要予約）

営業時間：7:00～21:00

定休日：不定休



シンボルマーク

海の駅とは、海から、誰でも気軽に、安心して立ち寄り利用できる港のことです。海の駅の登録を希望するマリナー等に対して「海の駅ネットワーク（事務局：（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会（海レ協）、（公社）全国漁港漁場協会）」の中に設置されている「海の駅設置認定委員会（事務局：地方運輸局）」において審査し、海の駅ネットワークにおいて登録されています。（<http://www.umi-eki.jp>）

【問い合わせ先】

海事振興部 船舶産業課

担当：渡邊・今岡

電話：082-228-3691

FAX：082-228-7309